

## 動物が食べ物に変わるとき

今年も冬の山北に出かけました。新潟県と山形県の県境。少しでも山に入ると豪雪地帯です。山熊田と大毎（おおごと）の2つの集落をまわります。どちらもマタギが住んでいます。山熊田は隣の集落と10kmほど離れた人口48人の集落で、大毎は国道沿いの集落で、人口は400人ほど。どちらも高齢・過疎の集落です。

中嶋哲夫の

「人事も歩けば」



山熊田では、還暦を過ぎたお母さんたちが起業した、生業の里を訪ねます。山の恵みがたっぷりの昼食をいただき、機織りを見学し、四方山話を楽しめます。たまには糸車をまわしたりもします。今年は雪の重みでふすまの開閉に苦勞をしました。その後、集落内を散策します。集落の道路には融雪用の山水が流されており、長靴を履いていれば自由に動けます。各世帯から薪ストーブの煙が上り、ぬくもりを感じます。薪ストーブでは、熊の胆が乾燥されたりもします。自然の恵みを生かし切るマタギの里ですから。昨年はカモシカをみることができました。

翌日は、大毎集落にいきました。集落からスノーモービルで林道を走り、山荘にお邪魔して楽しめます。安全な平坦地でスノーモービルで遊び、その後、マタギ料理を楽しむのが基本型。今年はそのに加えて、ウサギ狩りに挑戦しました。

我々が勢子となって杉林にいるウサギを追い上げ、猟師が銃で射止める。勢子は半円



▲山荘に集まり、いざ出発！

形に展開し、徐々にウサギを追い込みます。しかし、ウサギも賢い。勢子の姿をみると、立ち上がって耳を立てて状況を確認し、勢子の真ん中を突破して逃げます。何羽かがそうして包囲網を突破します。ウサギと人間の知恵比べです。逃げるウサギやリスの姿をみるたびに大歓声上がるのですが、追い込んでいるウサギの姿はみえません。

そのうち、鉄砲が鳴ります。連続して銃声が聞こえると、当たらなかったことがわかります。一発だけであれば当たったはずですが。

今年の獲物は4羽でした。雪の上で皮をはぎ、血抜きをして解体します。そこからはウサギはウサギ汁や煮込みになります。甘みのある美味しい肉です。勢子として働き、捕まえたウサギを胃袋に入れると、人間が他の生物の命をいただいて生きていることを実感します。こんな体験をすると、野生動物を食べ物としてみる視点が生まれ、ペットへの愛とは別の動物愛を感じたりします。

(MBO 実践支援センター代表)

